

母子相互作用と育児に関する 社会学的ならびに疫学的検討

— 職業婦人と家庭婦人の調査 —

植 田 理 彦 (財団法人日本健康開発財団)
力 石 道 勝 (“ ”)

調査の実施要領

本年度の調査は、昨年度実施した家庭婦人、職業婦人に対するアンケート調査を補完し、さらによりよく実証的に母子相互の関係を知らるために行った。即ち家庭婦人、職業婦人に対してグループインタビューを実施した。

併せて身体状況については、前年度に引き続き当財団健診センター受診者の中から、家庭婦人、職業婦人を選び出しそれぞれの検査データを比較検討した。

1. 調査目的：児童を持つ主婦と職業婦人及び児童を持たない婦人について、子育てに関する項目についてしらべ、健康実態がどのような状況にあるかを調べた。

2. 調査対象：児童を持つ主婦と、児童を持つ職業婦人及び児童を持たない職業婦人の3グループにわけて調査した。

3. 調査方法：

1) グループインタビュー

日常生活状況、子供との遊ぶ時間、父親と接する度合、父親の育児協力度合、育児方針、育児の悩み、育児の喜び、育児中の母親の健康状態、職業と子供との関係の9項目について比較検討した。

2) 問診による自覚症状調査

児童を持つ主婦と職業婦人、ならびに児童(子供)を持たない職業婦人について112項目の自覚症状を調べて比較検討した。

3) 総合健診

児童を持つ主婦(A)と職業婦人(B)、子供を持たない職業婦人(C)について、その身体状況を検査し比較検討した。

グループインタビュー調査

1. 対象：児童を持つ主婦5名、児童を持つ職業婦人5名。(詳細は調査対象者のプロフィールに記す)

2. 調査日時：家庭婦人(主婦)については昭和57年1月18日、14:00-17:00、職業婦人については、昭和57年2月6日、14:00-17:00(インタビュアー；力石)

3. インタビュー結果(表1)：調査結果概要

1) 日常生活状況の比較

一番下の子が未就学児の場合、殆どどの主婦は家事、育児に追われている。しかし子供のすべてが就学児になると、生活の大部分を占めていた育児の時間が少なくなり、今まで出来なかった趣味など何かやりたいという希望が強くなる。

職業婦人の場合は、家庭に老夫婦がいる場合を除いて、ほとんどが子供を保育園に入れているので、育児の場が家庭と保育園の二ヶ所になる。とくに自営業の場合は、育児環境が家庭と仕事の場の両方に混在していることがある。

2) 子供と触れ合う時間

家庭婦人は家事以外の時間には、ほとんど子供と接している。職業婦人は自営業を除いて、職業より帰宅後、子供と接する時間を持っている。

休日に家族揃っての団らんは、家庭婦人、職業婦人とも(以下両家庭と記す)、父親が精神的にも肉体的にも、子供と過せる時間があるか否かにかかっている。

3) 父親と遊ぶ度合

両家庭とも、父親の職業が何であれ、また母親が多忙であるかないかにかかわらず、いかに父親が子供とのコミュニケーションを重視するかにかかっている。

4) 父親の育児に関する協力度

父親と遊ぶ度合と同じように、両家庭とも父親の理解ひとつにかかっている。それと同時に、父親に育児の大切さを理解させるにはその妻のリードにある。

5) 育児の方針

両家庭にきわだって相違はなく「健康でのびのび育てたい」と、母親の心からの願いであり、希望である。

6) 育児の悩み

家庭婦人の側には、父親が育児に熱心なあまり、子供を可愛がり過ぎるという意見があった。

最近核家族の数がふえているが、老夫婦と同居の世帯では、おばあちゃんから育児についてのアドバイスが得られ、悩みがなかったという意見もあった。

自営業の職業婦人の場合、時間がなくて子供を十分かまっていられなかったという反省もあった。

総じて家庭婦人の方が、父親の育児態度に対する不満が多いようである。

7) 育児の喜び

両家庭とも、まったく同じように「母親であること」の喜び、「子供と一緒に生きて行く」ことの喜びに溢れている。

8) 育児中の自分の健康状態

職業婦人の方は、職についているから健康に十分気を使っているというものが多かった。

9) 職業と子供との関係

家庭婦人で育児が終った人、あるいは就学児になった人の多くは、「やっと自分の好きなことができる」「これからは私の人生なのだ」という

意見があった。また老夫婦と同居の世帯の人には職場に復帰したいと願望もあった。

職業婦人からは、家庭婦人に対して子供と接し過ぎるために甘やかすといった意見がかなり多くあった。

保育園の役割を重視しており、家庭以外の所で早くから子供同士で遊ばせることが必要だと説く人も多くいた。

問診による自覚症状調査

1. 対象：Aグループ（職業婦人で子供をもつ者）、Bグループ（職業婦人で子供をもたない者）Cグループ（家庭婦人で子供をもつ者）、Aは14人、Bは12人、Cは16人。

2. 調査結果（図1）

家庭婦人に“目まい、立ちくらみ”、“月経不順”を訴える者が多かった。“腰痛”、“肩こり”は両者とも多い症状の一つであるが、職業婦人に訴える者がやや多い。“眼がかすむ”訴えは職業婦人に多い。また“よくねむれない”、“足がつかれやすい”、“はき気がする”は職業婦人に訴えられる。

職業婦人の子供の有無によっては、子供のない者に胃腸症状の訴えが多い。

調査対象の人数が少ないのである傾向はつかめたが、有意の差があるとはいえない。

総合健診

24項目の検査データは表2に示す。そのデータを図に示したのが図2である。A、B、Cグループによりその有意差はない。

(表1) グループインタビューの発言まとめ (その1)

	対象者プロフィール			日常生活状況	子供と遊ぶ時間	子供について夫との話し合いの度合
	年齢	自分の職業	世帯構成			
家庭婦人	A	34才	主婦 会社員	長男(9才) 長女(6才) テニスを始めた。	主人がほぼ規則正しく帰宅するので、子供との時間はほぼ毎日ある。	子供コンプレックスがあるみたい、子供をかわいがる。
	B	35才	〃 自営業	長男(9才) 長男(5才) 何か趣味をみつければケケを防ぎたい。	自営で忙しいので平日は団らん時間が少ない。休日にも別行動が多い。	あんまり子供に関心が無いみたいで、話し合いの機会が少ない。
	C	28才	〃 会社員	日中は義母と一緒に、夜は家族全員で夕食をしている。	一日の大部分の時間を子供との団らんに通している。	問題点があればそのつど話し合うようにしている。
	D	30才	〃 会社員	三人とも幼稚園なので子供を中心とした生活リズムになる。	午後のほとんどが子供たちとの時間になる。	子供たちのことが話題の中心となり、相談もよくする。
	E	34才	〃 会社員	毎日が子供中心の生活を送っている。	子供が小さいので、ほとんどの時間いっしょに過ごしている。	ほとんどまかせっぱなしであんまり子供と話し合いをしていない。
職業婦人	A'	32才	小学校教師 弁護士	主人が弁護士で多忙なので、スレ違い夫婦の生活を送っている。	たまの日曜日に親子いっしょにくつろぐぐぐらいい平日は母子家庭である。	たまの日曜日に話すぐぐらいいである。
	B'	31才	自営業 自営業	とにかく忙しい。朝8時から夜12時まで、主人と働きづめである。	夫婦で一緒にということではまずない。忙しいのでテレビで子にしてみよう。	従業員が帰った夜の時間に、仕事や子供の話しをする。
	C'	37才	小学校教師 会社員	主人は多忙で1週間のうち夕食を食べるのは1~2回ぐぐらいいである。	平日は母子家庭のようだが、休日には比較的親子で遊んでいる。	職業がら教師なので「お前にまかせろ」と比較的まかせられている。
	D'	38才	理容業 理容業	理容業なので朝から晩まで主人と一緒に生活を送っている。	仕事場と家庭が一緒な場で、教育と生計の場が混在している。	職場、家庭でもおりにふれて子供の話をしてい
	E'	39才	保母 小学校教師	同じような仕事なので生活のパターンはほぼ一緒である。	平日、あるいは休日ともに比較的団らんできる。	教育の方法、子供の育て方など、職業がらいろいろ話しをする。

(その2)

	主人の育児の協力度	育児の方針	育児の悩み
A	協力的すぎるくらい協力的で、時にはうるさいと感じることもある。	二人とも元気で健やかに育てて欲しいと思う。	少し子供を可愛いがりすぎてしまったみたい。
B	仕事が忙しいのか、ほとんどない。	とくに決った方針というものは持っていない。	主人にもう少し育児に関心を持って欲しい。
C	休日は散歩、遊びなど比較的接するよう主人はしていた。	健康ですこやかに育てて欲しい。	義母と同居なので、義母からいろいろ育児のアドバイスが得られたので悩みがなかった。
D	時間がゆるす限り、比較的積極的に協力してくれた。	明かなく、元気で思いやりのある子になって欲しい。個性を大切にしたい。	としごにふたごという状況だったので一人一人きめ細かに接するゆとりがなかった。
E	ほとんどないのがさみしい。	元気でのびのびと育てて欲しい。	とくにない。
A'	最近、少しずつ育児に理解を示してきたようだが、まだ自分から率先してということはない。	子供がまだ小さいので、特にない。	もう少し主人が子供に対してふり向いて欲しいと思う。
B'	商売始めて5年目。ようやく軌道にのるかからないかであるので、主人は仕事に夢中である。	特にない。	時間がなくてかまってもやれなかった。
C'	「まかせられっぱなし」だが、かみんじんの所は主人がみてくれるようである。	健康に育てて欲しい。	とくに悩んだということはない。
D'	主人のできる範囲内で育児に協力してくれているようである。	一生懸命夫婦で働いている姿を見て、子供が成長して欲しい。	仕事場と家庭との区別がつかないところが悩みである。
E'	育児には主人は協力してくれた方である。	保育園での友達との交流が一番子供の成長によい。	夢中で3人の子供を育ててきているので、悩みなど感じるヒマがなかった。

(その3)

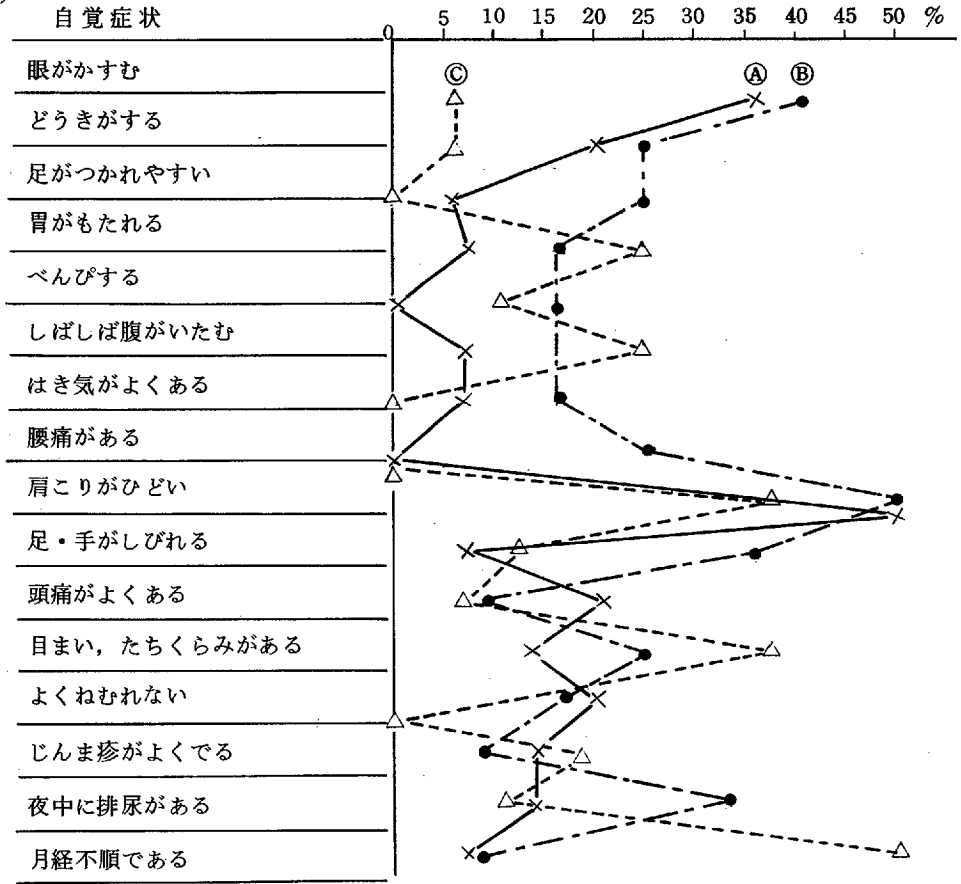
	育児の喜び	育児中の自分の健康状態	職業と子供との関係
A	母親であるというところの実感ではないだろうか。	健康に気を使ってしまったのがさみしかった。	やっと自分の好きな事ができるよ うになったので、自由時間がな くなるのは考えられない。
B	自分に似た顔をもった人間がいる ということだけでも楽しいのに、ま して産んだとなると余計に楽しい。	子供の体調ばかり気にしていた。	やっと育児から開放されるので、 何か好きなことをやってみたい。
C	子供の成長を自分の目で確かめら れることだと思う。	健康であった。	家族構成上「親子」にはならな いので、自分の生活の充実のため にも職場復帰したいと思う。
D	とにかく子供は可愛いので、忙 しい毎日に充実感がある。	ひじょうに健康だったので育児が 苦にならなかった。	続けて三人とも小学生になり、一 度に育児の手が離れるので何か仕 事を持ちたいと思っている。
E	自分の生きる糧のようなものだと 思う。	健康を害することはなかった。	次女が3才なので働こうなどとい うことは考えられない。
A'	母親であるということの実感では ないだろうか。	職業を持っているがゆえに、ひじ ょうに健康に気を使った。	家庭婦人を見てみると、子供にふ りまわされて生きていくという感 じがする。
B'	いっしょに生きていくことの喜び がある。	仕事、仕事の連続の中で育児もし なければならなかったもので、疲れ てしかたがなかった。	食べていくために働いているので ある。
C'	一日の疲れをいやすもとである。	自分が糖尿病であったので、疲れ が残った。	教師なのでいろいろな子をみるこ とができ、わが子も客観的にみる ことができた。
D'	子供に教えられるで生きていること ではないだろうか。	とくに健康を害することはなかつ た。	母親がべつたりつりついた育て方をす るより、保育園の中で子供同志に はぐくまわれて成長して欲しい。
E'	子供を成長していくということ をみる喜びである。		結婚前から保母をしていたから別 に職業について、子供に悪影響を 及ぼすなどと考えもみなかった。

(表2)

檢 查 結 果 表

檢 查 項 目	單 位	職業婦人子有(A) N=14 SD	職業婦人子無(B) N=12 SD	家庭婦人子有(C) N=16 SD
年 齡	歲	41±5.4	41±6.1	33±3
體 重	kg	50.3±7.4	50.3±7.9	52.7±5.7
RBC	萬/mm ³	4353±25.6	4285±34.9	4278±35.4
WBC	mm ³	6635.7±1326	6366.6±1587	6240±1322
Hb	g/dl	13.2±1.5	12.9±1.4	12.1±1.1
Ht	%	38.9±3.6	38.5±3.3	36.5±2.9
T.P.	g/dl	7.4±0.2	7.5±0.4	7.3±0.3
A/G		1.54±0.15	1.54±0.16	1.41±0.2
T.T.T	Unit	1.09±0.49	1.12±0.8	1.35±0.7
Z.T.T	"	9.79±1.34	9.7±1.98	7.9±2.12
AIK-P	"	5.4±2.16	5.4±1.16	5.7±1.55
GOT	K-unit	16.5±5.7	15.6±3.2	21.7±3.6
GPT	"	12.14±5.46	10.3±2.6	9.18±2.9
Bilirubin	mg/dl	0.52±0.2	0.55±0.1	0.77±0.2
U.N.	"	14.3±2.0	14.4±3.0	11.2±2.4
Creatinin	"	0.77±0.08	0.79±0.08	0.62±0.1
U.A.	"	3.86±0.69	4.35±0.64	3.28±0.86
r-GTP	mu/dl	10.2±4.1	9.4±5.6	*15.5±4.8 (N=6)
Na	meg/l	141±1.3	143±2.0	*140±1.2 (N=4)
K	"	4.2±0.5	4.1±0.3	3.9±0.2
Ca	mg/dl	8.9±0.2	9.2±0.4	*9.0±0.4 (N=4)
T.chol	"	174.9±18.2	188±19.1	172.8±25.5
T.G	"	78.5±38.9	66±18.9	76.0±15.5
Gluc.	"	91.3±9.4	95.7±9.0	91.2±4.3

(図1)

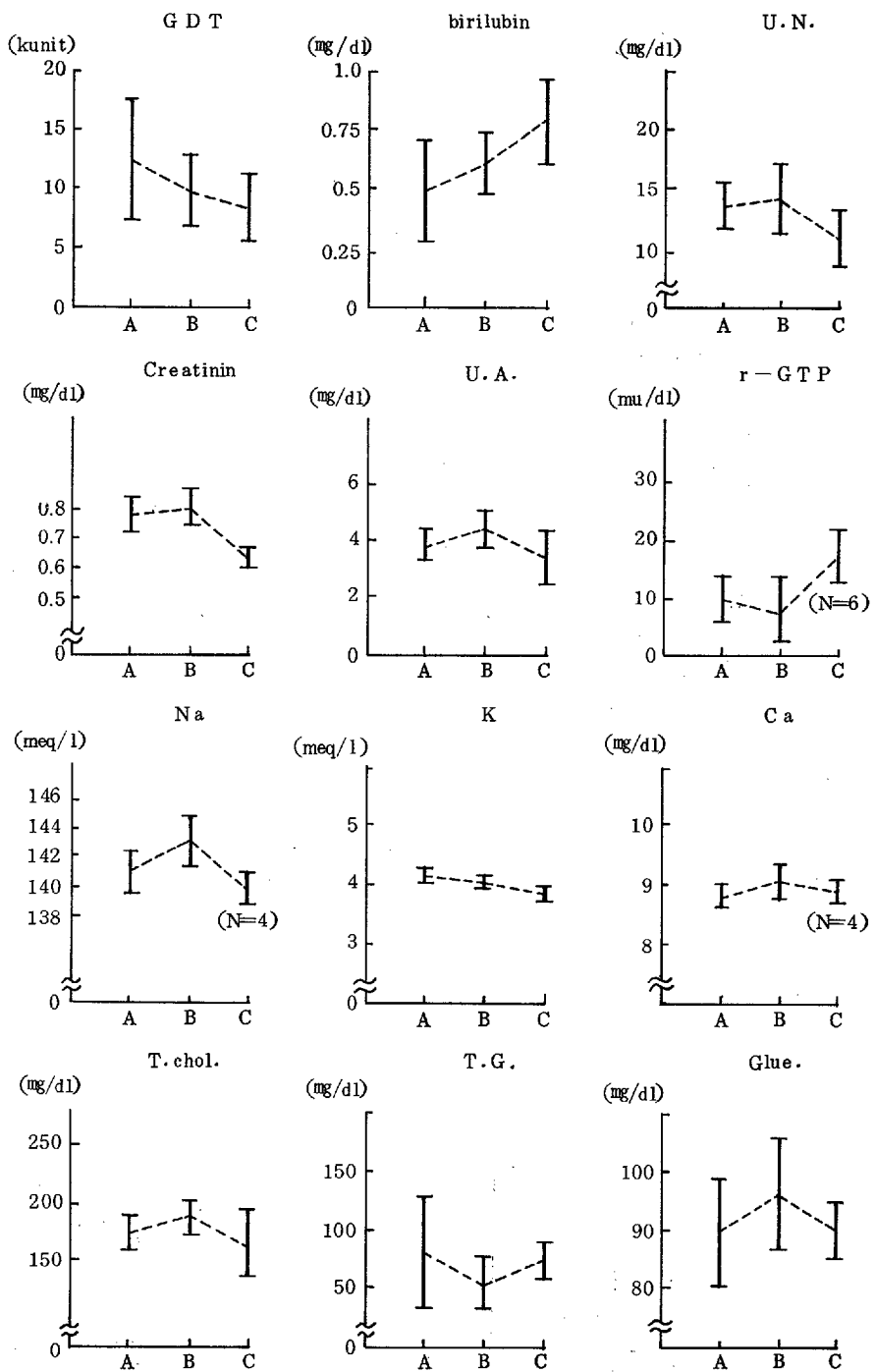


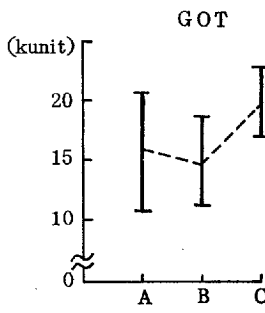
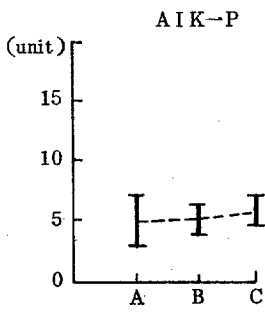
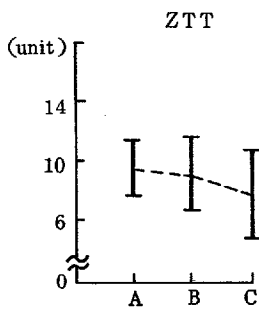
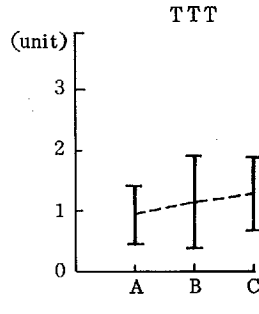
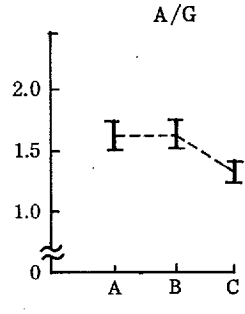
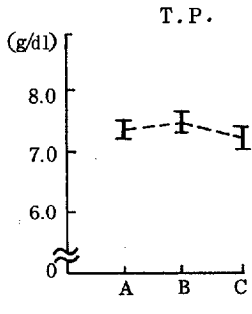
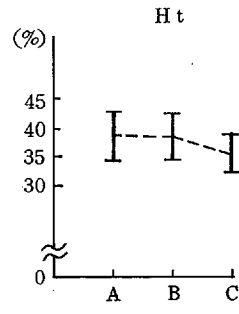
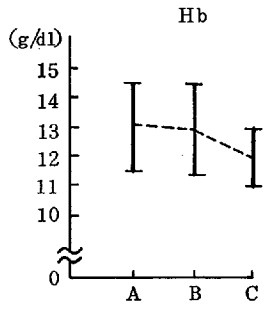
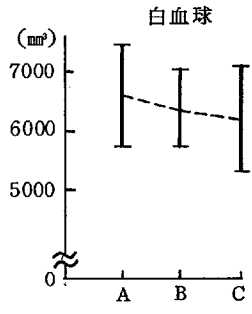
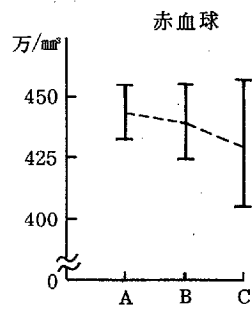
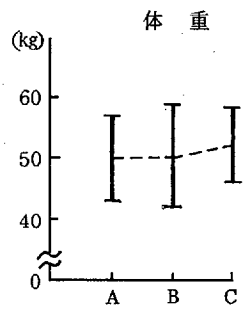
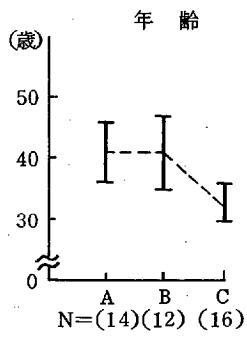
A × 職業婦人
子有 N = 14

B ● 職業婦人
子無 N = 12

C △ 家庭婦人
子有 N = 16

(图 2)







検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



本年度の調査は、昨年度実施した家庭婦人、職業婦人に対するアンケート調査を補完し、さらによりよく実証的に母子相互の関係を知らるために行った。即ち家庭婦人、職業婦人に対してグループインタビューを実施した。

併せて身体状況については、前年度に引き続き当財団健診センター受診者の中から、家庭婦人、職業婦人を選び出しそれぞれの検査データを比較検討した。